

---

# 名残旅へ行こう

遼

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

名残旅へ行こう

### 【Nコード】

N6674I

### 【作者名】

遼

### 【あらすじ】

ある病に侵されたと知った沙織が、自分の過去を振り返り、かつて置いてきた“名残”あるものを訪ねる旅に出る。

その中で、彼女は出会いと別れを繰り返し、本当に大切な何かを見つける。

疼き？

つんとした消毒液の匂い。どこかで嗅いだことのある匂いだ。こ  
こは病院だけれど、行院ではないどこか。どこだったのだろうと、  
沙織はしきりに考えていた。

「山本さん」

自分よりも一回りほど若い看護師に呼ばれて、ふと顔を上げる。い  
つの間にこんな年を重ねてしまったのだろう。つい最近まで、病  
院で見る看護師はみんな年上だった。『大人になつたら、あんなお  
姉さんになりたいな』なんて思っていたはずなのに。あの頃、あん  
なにも凜として美しく見えた看護師は、こんなにも幼く思える。任  
せて大丈夫なのかしら……と心配になるほどに。目線が合うと、に  
こやかな口元にはリップグロスが光っていた。

待合席の硬いソファから立ち上がって、その看護師の横をすり抜  
けようとした。そのとき、わずかな香水の香りがした。デオールの  
の甘ったるい香り。沙織の眉間にしわが寄る。誰に媚をうるつもり  
なのかしら……そんな風に感じてしまう自分と、その自分がかつか  
りする自分。年をとった証拠だ。自分より若い女の子の所作が気  
になるなんて。そこにはかつての自分の姿があるのだ。背伸びをし  
たかった“あの頃”の自分。自分が何かを得るために、失ってしまった  
たもの。それを後悔してはいないけれど、今の価値観にはそぐわな  
い。癪に障るのだ。これはどうしようもなかった。

大人になればなるほど、物分かりがよくなると思っていた。しか  
し、そんなことはないらしい。キャパシティは小さくなる一方だと  
思う。自分に自信があるからこそ、融通が利かない。面倒なプライ  
ドばかりが大きくなる。これも年をとった証拠だと思つと、ため息  
しか出ない。

そんな心中はひた隠しにして、沙織は診察室へ入った。簡素な机  
の前には、マスクで顔を半分隠された初老の女医がいた。髪の毛に

白髪が交じっている。後ろでひつつめた髪はぱさぱさとしていた。

「山本さん、検査の結果お話ししてもかまいませんか？」

静かな声でカルテを繰りながら女医は言う。おかしな話だ。彼女は  
その“お話”をするために沙織を呼んだはずなのに、確認するなん  
て。不思議な間ができた。

「はい。私しか聞くべき人はいませんし、十分、理解できる年齢で  
すから」

沙織は非常に詳しく答えてみたが、女医の反応は薄かった。マスク  
のせいで表情が見えなかったこともあるが、曖昧に頷いただけだ。

「もう一度、検査を試してみないといけません、おそらく手術が必  
要になるでしょう」

「はい」

「あなたの命を守るために手術しなければならなくなると思います。  
できるだけ早い段階で。早ければ早いほうが良いのです」

「はい」

「つらいでしょうが、気持ちをしっかりと持って頑張りましょう」

「あの、それで病名は？」

「あなたは乳がんだと思われます」

その後、あれこれと説明を受けたが、結局は自分の片方の乳房を失  
うのだという。沙織は愕然とした。あつて当たり前のものがなくな  
るといふ事実が不思議でならなかった。ショックというより、受け  
入れられない事実だった。人生、何が起こるかわからないと他人事  
のように思っていた。

女医は無表情に説明を続けていたが、沙織にはどうすることもで  
きなかった。選択肢がない以上、沙織にできることはただ一つ。

「お任せします」

と、頭を下げることであった。

そのとき、急に消毒液の匂いが思い出された。この匂い、保健室  
の匂いだ。自分の学生時代のことか思い出された。古びた校舎、教  
室、グラウンド、そして保健室。保健室は学校の中で、特殊な空間

だった。授業や勉強と関係ない、別の時間が流れる場所。不思議なことに、小学校も中学校も高校も、何かしらの思い出がある場所だった。

ずっと忘れていたことが、鮮明に思い出される。走馬灯というのは、こういうものなのかな……と妙に納得できた。自分自身を振り返る時間がこんなにも早く訪れるとは思っていなかった。しかし、これはまぎれもない事実だった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6674i/>

---

名残旅へ行こう

2011年1月26日23時59分発行